

受験番号 _____

2025 年度 一橋大学大学院 言語社会研究科博士前期課程（修士課程）

秋季入学試験問題

第 1 部門

論 文 問 題

- ・ 試験開始の合図があるまでこの問題冊子を開いてはいけない。以下の注意事項をよく読むこと。
- ・ 一般受験者、外国人留学生受験者、社会人受験者ともに、(1) 論文問題 A 群の出題に、問題文に記されている指示に従って解答し、さらに (2) 論文問題 B 群 (01~16) に出題されている問題から 1 問を選んで解答しなさい。
- ・ 論文問題 A 群、論文問題 B 群につき、それぞれ別の用紙を用いて解答すること。
- ・ 論文問題 A 群への解答に際しては、問題文に記されている指示に従って、問いの番号(問い1、問い2、問い3)を「科目欄」の問題番号記入欄に記し、論述に使用する語群①②からそれぞれ2つずつ選んだキーワードを、解答の前の一行目に記すこと。
(例：語群 ① = ××、□□、語群 ② = ○○、▲▲)
- ・ 論文問題 B 群への解答に際しては、解答用紙の科目欄に、選択した問題番号を記入すること (例:B01、B04 など)。
- ・ 解答に際して用紙 1 枚では不足の場合、試験監督員に申し出て追加配布を受けること。
- ・ 本冊子は持ち帰ってはならない。上部の受験番号欄に必ず受験番号を記入すること。

A群

問い 次の語群①②から、それぞれ単語を二つずつ選び、それら四つの単語すべてを論旨と密接にかかわるキーワードとして用い、下の問い1～3のいずれかに答えなさい。

解答に際しては、どの問いと単語を選択したか、問題冊子表紙の指示に従って記すこと。

語群 ①

犬 歌枕 唇 舌 ジャーナリスト

水銀 橋 筆跡 プリンター 余白

語群 ②

アンガジュマン 韻律 換骨奪胎 擬態 終焉

等価 二項対立 反抗 眼差し(まなざし) メビウスの輪

問い1 「不自然」とはどういうことか、論じなさい。

問い2 「役に立つ」とはどういうことか、論じなさい。

問い3 「ゆるす」とはどういうことか、論じなさい。

B 群

- 01 ある共同体において使用される言語が移り変わる現象を「言語交替」と呼びますが、それが起きる原因とそれによって生じる問題について、具体例を挙げながら論じなさい。
- 02 1940年代後半に始まる世界的な冷戦体制のもとで、東アジアの中国語圏でも新たな「冷戦文化」が登場した。それはどのようなものであり、今日どのような研究が可能であるのか、具体的な作品や事象を挙げて説明しなさい。
- 03 「文化の翻訳」と「表現メディアの翻訳」について、その共通点と相違点を、具体的な事例や作品を用いて論じなさい。
- 04 文学作品が「歴史的であること」、「歴史超越的であること」とは、それぞれどういうことか。また、両者は互いにどのような関係にあるか。具体的な作品を例に挙げて論じなさい。
- 05 夢について原理的に思考し、夢の解釈学を構築することは、芸術の研究（文学研究、映画研究、文化研究を含む）にとっていかなる意味をもつか、具体的な作品や批評理論を題材にして論じなさい。
- 06 カントは美的判断の重要な契機として「美の無関心性」を挙げている。現代の芸術においてもこの「無関心性」は有効かどうか？ 関心と無関心の違いを説明した上でこの問題について論じなさい。
- 07 ドイツ語圏の文学・思想などの任意の言語作品（複数可）を取り上げ、下のテーマのうち一つを選んで論じなさい。その際、冒頭付近にどのテーマを選んだかを明記し、取り上げた例に即して、当該テーマについてなるべく具体的に論じること。
 - ア) 戦争と平和
 - イ) 個人の内面と宗教
 - ウ) テクストの語り手が信頼できるか否か

- 08 アドルノの論文「文化批判と社会」（1949年）における「アウシュヴィッツ以降、詩を書くことは野蛮である」という一節、とくに「アウシュヴィッツ以降」という表現は、第二次世界大戦後、ユダヤ系哲学者たちに大きな示唆を与えた。この「アウシュヴィッツ以降」を自らの思考課題とした哲学者を一人挙げ、いわゆる「パレスチナ問題」の延長線上にある2023年10月以来のガザ危機の現状をふまえながら、「アウシュヴィッツ以降」という問題設定が現在孕んでいる問題性について論じなさい。
- 09 18世紀のフランスでは、書簡体小説が流行した。モンテスキューの『ペルシア人の手紙』、ルソーの『新エロイズ』、ラクロの『危険な関係』のうち一篇を取り上げて、書簡体という形式がどのように内容に活かされているかを論じなさい。
- 10 大正期（1912～1926）の日本文学について、具体的な事例を挙げて考察しなさい。
- 11 科学の歴史においては、それまで数量として捉えられていなかった対象が数や量として認識されるようになったという事例が少なくない。そのような例を一つまたは複数挙げて、数量化の過程とそれがもたらした帰結について論じなさい。
- 12 小説や詩の解釈において、それを書いた作家や詩人についての伝記的事実はどのように参照されるか（あるいは、参照されるべきではないか）、具体的な文学作品とその作者に言及しながら論じなさい。
- 13 フランスの文学者ポール・ヴァレリーは『ドガ・ダンス・デッサン』（1936年）のなかで、「風景画は、主題という概念を崩壊させ、数年内に、芸術の持つ知的な側面のすべてを物質感^{マチエール}と陰影の色合いに関する議論に縮小してしまった」と記した。芸術の歴史において風景画や風景描写が果たした役割について、時代や地域を限定したかたちで、具体例を挙げながら論じなさい。
- 14 あるテキストあるいは作品（ポピュラーカルチャーのそれを含む）を研究する際に、そのいわゆる明示的あるいは顕在的な「主題」の読解に留まらずに、その作品の形式（フォーム）が示唆はするが明示することのない潜在的な意味作用をある程度把握し、さらには説明するためには、どのような読解あるいは分析を行えばよいか、具体例を用いながら説明しなさい。

- 15 西洋近代における宗教と科学の関係はどのようなものであったと考えられるか、具体的な事項や人物、著作などに触れながらあなたの見解を論じなさい。

- 16 一橋大学には、創立 75 周年を記念して 1950 年に発表され、以来「一橋の歌」として歌い継がれてきた楽曲《武蔵野深き》がある（詞：銀杏会同人、曲：山田耕筰）。こうした校歌・大学歌（あるいは寮歌・社歌）を研究対象とする可能性について、具体例を挙げつつ論じなさい。